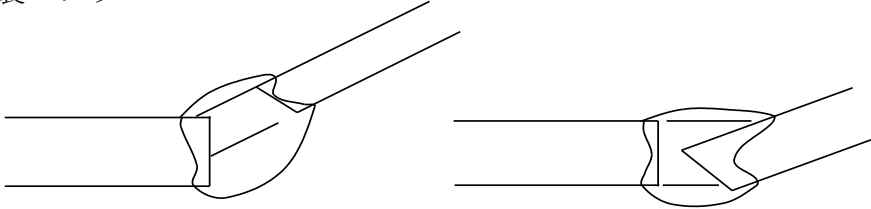


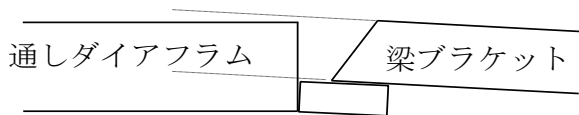
Q&Aから抜粋

○通しダイアフラムとハンチブラケットの測定（裏ハツリ、裏当て）
裏ハツリ



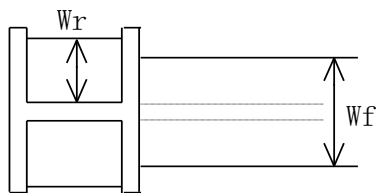
一方向の板の延長線（一点鎖線）が完全に溶接金属で覆われるように溶接施工されておれば良いものとします。

裏当て



梁ブラケット延長線が出たらダメ

○仕口のずれ検査対象溶接長さは



H、T、十字形断面の柱貫通式のずれの検査
において検査対象溶接長さは W_r とします。

○肉盛補強の検査、UTについて

肉盛補強溶接は本溶接の健全を確認したのちに行われること、肉盛補強溶接は開先内の溶接とは異なり内部欠陥を発生させる危険性が少ないこと、肉盛溶接部のUT検査は技術的に困難と考えられることなどから、寸法と外観検査のみとしました。